

I B D P 評価方針

2018(H30).11.16 作成
2025(R7).6.6 最終更新

はじめに

滋賀県立虎姫高校高等学校は、管理職はじめ教職員全体が生徒の評価の重要性をしっかりと認識しています。評価にあたっては、生徒の状況を正しく把握し、本校の教育方針に示されている育てたい生徒像に照らし合わせながら、各教科の専門性や主体性を尊重しつつ、公平かつ客観性に富んだ評価方法で、生徒の学力の伸長具合を見極めることが重要です。それと同時に、生徒に対する評価が教職員の授業力向上にも資するものでなければなりません。

そのために、教育目標に合致した評価規準を設定し、総括的評価と形成的評価との両輪によって、生徒一人ひとりの達成度を公平かつ公正に評価します。この評価を、I B の最終評価である外部評価と内部評価につなげるために、学校全体で継続的に評価方法を工夫し、より信頼性の高いシステムを構築していく責任があることはいふまでもありません。

本校は、I B の理念と学習者像の価値を熟知し、それを校内外に周知する責任があることを認識しています。従って、教員、D P コーディネーター、評価コーディネーターおよび管理職は、評価についても深く理解し、たとえば、『D P における評価手順』、『D P : 原則から実践へ』、『プログラムの基準と実践要綱』のような、I B によって編集された文書を熟読玩味し、これらに示された成績規準を正しく理解しています。その意味で、本校における I B D P の生徒活動の評価は、I B の評価規準と一致しています。

本校では、この「I B D P 評価方針」をもとに、I B 生徒に対して各教科がその独自性を生かしながら I B D P の趣旨に沿った評価を実施します。フルディプロマを目指す生徒の興味・関心・意欲を高め、持てる能力を最大限に引き出すための評価とします。

虎姫高校における評価の現状

本校は、3 学期制を採用し、各学期の中間段階（3 学期は除く）と終了段階に考查を実施し評価を行っています。評価は、総括的評価の一つの指標である考查点と、出席状況、意欲・態度、各種課題・レポート・小テストなど、主に形成的評価による平常点の二つの要素から形成されます。また、①知識・技能②思考力・判断力・表現力③主体的に学習に向かう態度の 3 観点により、評価をしています。課題やレポートについては各教科担当者が提出状況を管理し、担任と情報を共有します。遅延があった場合には教科担当者や担任が面談を実施したり、教科担当者が放課後補習を実施したりするなどして提出を促します。

各学期末には教科会議を開催し、評価規準に照らし合わせながら総合的に判断し、5 段階で評価した成績が通知されます。

志願者の登録

I B生徒がD Pの評価を受けるために、D Pコーディネーターは、志願者の登録を行います。これ以外の方法で志願者を登録することはできません。

学校の役割と責任、生徒の責任

D P資格を取得するためには、I Bが示す1から6の各グループから原則1科目ずつ履修することに加え、3要件（E E、T O K、C A S）を履修する必要があります。I B生徒はそれぞれの科目について評価を受けることになります。各グループの科目の評価は、外部評価（E A）と内部評価（I A）にわかれています。E Aとは、I Bが実施する国際的な筆記試験（試験セッション）のことで、E Aの採点は、専門のI B試験官が行います。I Aは、本校教員が各D P科目の評価方針に基づいて行います。

本校は、学問的誠実性の原則を守り、一切の不正行為に関与しません。I B生徒は、評価を含むD Pの履修期間を通して、全ての要件を満たし、責任ある倫理的な行動をとらなくてはなりません。I B生徒とその保護者は、D Pについて質問がある場合は、本校のD Pコーディネーターに問い合わせなければなりません。I Bに直接連絡取することはできません。

成績評価と通知表

I B D Pにおける各科目の成績は、7点（最高）から1点（最低）の7段階で評価されます。「T O K（知の理論）」と「E E（課題論文）」の成績はA（最高）～E（最低）の5段階で評価され、E EとT O Kをあわせて3点満点で計算されます。虎姫高校のI B生徒は、年度末はもちろん、途中経過として各学期末に到達度を通知表により通知されます。その通知は、I Bの規準（7段階）による仮評価と学習指導要領にもとづく本校の規準（5段階評価）によるものの2種類となります。I Bの7段階評価（仮評価）および本校の5段階評価との関連の目安は次のとおりです。

IB Grading Scale		Torahime Grading scale
Excellent Performance	7	5-4
Very Good Performance	6	
Good Performance	5	
Satisfactory Performance	4	4-2
Mediocre Performance	3	
Poor Performance	2	3-1
Very Poor Performance	1	

教員は、各学期の7段階で示す総括的評価をD Pコーディネーターおよび評価コーディネーターに提出しなければなりません。生徒は、それにもとづいて作成された通知表により結果を知るとともに、各D P教科において自分がどの程度の学力水準にあるかを途中経過として知ることができます。また、個人面談等の際にも口頭でフィードバックを受けます。

I B D Pにおける形成的評価と総括的評価

本校教職員は、形成的評価と総括的評価の重要性や、評価規準を共有することの重要性について共通理解しています。

I B D Pの準備学年である第1学年から、評価規準について説明する機会を持つとともに、生徒用ガイドにも明記します。教職員は、シラバスおよび評価方針・評価規準が、I Bが求めるものと合致しているかを定期的に議論・検証し、必要に応じて改定します。また、評価用ルーブリックの策定にあたっては、学習者である生徒の意見も積極的に取り入れます。

総括的評価は、模擬試験を含む考査や成果物、またはプレゼンテーションの形式で単元ごと、または学期ごとに実施し、D Pにおける外部評価に向けた生徒の進歩を測る目安として用います。

形成的評価は、日々或いは毎週など、定期的に行われ、生徒の学習成果の足跡として意義を持ち、学習方法の改善に役立つものでなければなりません。

内部評価（I A）

内部評価は、レポートや論文、発表、実験などの形で行われますが、D Pコーディネーターと評価コーディネーターが中心となり、生徒にとって公正で、過重負担のない内部評価の実施計画を立案しなければなりません。各教科の担当者は、実施計画をD Pコーディネーターに提出することとします。

各科目および各レベルで内部評価にあたる担当者は、志願者の成果物が当該科目、当該レベルの要件を満たしていることを確認しなければなりません。教員は、個別の科目およびレベルに対応したI Bの評価規準を用いて生徒の成果物を評価しなければなりません。教員の評価は、必ず生徒が実際に完成させた成果物に基づいて行います。

最終的な内部評価は教師ごとではなく科目ごとに集められ、複数の科目担当者が協働して、D Pの評価基準に則り検討した後、教科会議を経て、TIBLO 会議でモデレーションし、学校管理職に承認を得ます。各科目担当者は、D Pの全体像を理解し、互いの科目の評価要件について基本的な知識を持ち協力し合います。また、各科目担当者は、学校内のモデレーション後、I Bの設定した期日までにモデレーション・サンプルを準備します。

I B生徒は、科目およびレベルごとの登録言語で、内部評価のすべての成果物を完成させなければなりません。成果物や参加の状況が不完全であっても、教員は採点を行わなければなりません。生徒が成果物を提出しなかった場合、当該科目の当該レベルには成績が付与されません。

D Pコーディネーターは全員の成果物とそれに関連する資料をI Bが利用できるよう、試験セッション終了（3月15日）までそれらを保管しておかなければなりません。

I B模擬試験と予測スコア

I B模擬試験は、E A、つまり、3年次11月の筆記試験以前に実施し、I Aの評価を含めたD Pの成績評価を予測するために行います。D Pコーディネーターは、予測スコアを3年次10月20日までに、I B I S（I B情報システム）に提出しなければなりません。また、大学入試に出願する際に、この予測スコアを提出しなければならない場合もあります。これらのことから、予測スコアの妥当性と信頼性は非常に重要であると言えます。したがって、D P科目担当者にとって、模擬試験は、予測ス

コアを算出する数少ない機会であり、また、生徒の実力をできる限り正確に把握し、今後必要な学習内容や解答方法をフィードバックして確認する重要な機会でもあります。本校では、予測スコアを生徒と保護者に共有します。

外部評価（E A）

E Aは、3年次10月3週～11月2週に世界のIBワールドスクールと同じスケジュールで実施されます。本校は、試験用備品と試験問題を安全に保管し、IBの規定に基づいて試験を実施する責任を負います。E Aの試験問題は、アクセスが制限された部屋の金庫に保管され、教頭またはDPコーディネーターが試験当日に試験官（監督）に手渡します。試験は定められた試験官の監督の下で適正に実施します。不正行為等の未然防止や情報管理等の対策には万全を期し、万一、不正行為が発覚した場合は、IB資料『学問的誠実性』に照らして、厳正に対応します。

多様な学習者への支援

多様な学習者のニーズに応えるため、日々の指導や形成的評価においては、さまざまな工夫を行います。本校の「多様な生徒受け入れおよび特別な教育的ニーズについての方針」に示されているように、特別な事情をもつ生徒も試験が受けられるように配慮します。なお、特別な配慮を必要とする生徒は、事前にその旨をDPコーディネーターに申し出なければなりません。また、DPコーディネーターは、必要に応じて、IBの認定を申請する手続きを行います。

終わりに

虎姫高等学校IBDP評価方針は、2018年にIB推進室により策定されました。毎年、IB推進室が検証と見直しを行って改定し、学校長が決裁します。

参考文献

- ・ International Baccalaureate Organization(2011)
Guidelines for developing a school assessment policy in the Diploma Programme
- ・ International Baccalaureate Organization(2022)
Diploma Programme Assessment procedures, PartB General regulations: Diploma Programme (訳) (2022) 『一般規則：ディプロマプログラム』
- ・ International Baccalaureate Organization(2020)
Programme standards and practice (訳) (2020) プログラムの基準と実践要綱